

< 報告事項 1 >

事 業 報 告

自 2013年7月 1日

至 2014年6月30日

1. 事業の概況

一般社団法人日本バレーボールリーグ機構(以下「Vリーグ機構」という)は、公益財団法人日本バレーボール協会から独立法人化して9年目を迎え、大会名称を「Vリーグ」に変更して20年を迎えたことから、20周年記念準備委員会を発足させ、記念行事を計画し実行しました。第9期事業年度の概況を取り纏め報告します。

2013年9月24日に開催した第8回定時社員総会終了後の理事会において、第8期に引き続き木村憲治代表理事会長、井原実副会長体制をスタートさせました。

V・プレミアリーグの女子大会は2013年11月30日埼玉県と岡山県において、男子大会は12月7日に福島県と広島県において開幕、以後順調にレギュラーラウンド、ファイナルラウンドの日程を消化、女子大会は2014年4月12日、男子大会は4月13日に優勝決定戦・3位決定戦を行い、約5か月間にわたるシーズンの全日程を終了しました。

V・チャレンジリーグは女子大会・男子大会ともに2013年12月7日、女子大会は千葉県と熊本県において、男子大会は神奈川県において開幕、以後順調にリーグ日程を消化、女子大会は2014年3月23日、男子大会は3月30日に全ての日程を終了しました。

さらに、2014年4月5日～6日の日程にてV・チャレンジマッチを行い、その結果に基づき理事会に於いて審査の結果、勝利した女子チームのデンソーエアリービーズ、上尾メディックスの2チームのV・プレミアリーグ昇格を決定致しました。

初めての試みとして、2014年4月14日にV・プレミアリーグ優勝の栄冠に輝いた女子の久光製薬スプリングスと男子のパナソニックパンサーズの全選手・スタッフならびにV・プレミアリーグとV・チャレンジリーグの個人賞に輝いた選手を中心に各チームから多数の選手、抽選で選ばれたファンをはじめ、協賛各社様、メディア関係者様、開催地協会の方々を招待し、「2013/14V.LEAGUE AWARD」を開催しました。

また、V・プレミアリーグ準備委員会、V・チャレンジリーグ改革小委員会を発足させ、リーグ運営方法の改革に着手しました。

以上のようなVリーグ機構の活動成果を経営数値面で見ますと、協賛金収入等の増加があり、収益は総額503,863千円(対前期8,285千円増)、費用は、カラーコート設営費用、2013/14V.LEAGUE AWARD開催費用等の増加があり、総額490,465千円(対前期24,003千円増)となりました。経常利益は13,369千円(対前期15,776千円減)、当期純利益は10,227千円(対前期8,634千円減)の増収減益となりました。

以下、事業内容を、メイン事業のV・プレミアリーグ及びV・チャレンジリーグを中心に詳述致します。

2. 事業内容

(1)V・プレミアリーグ

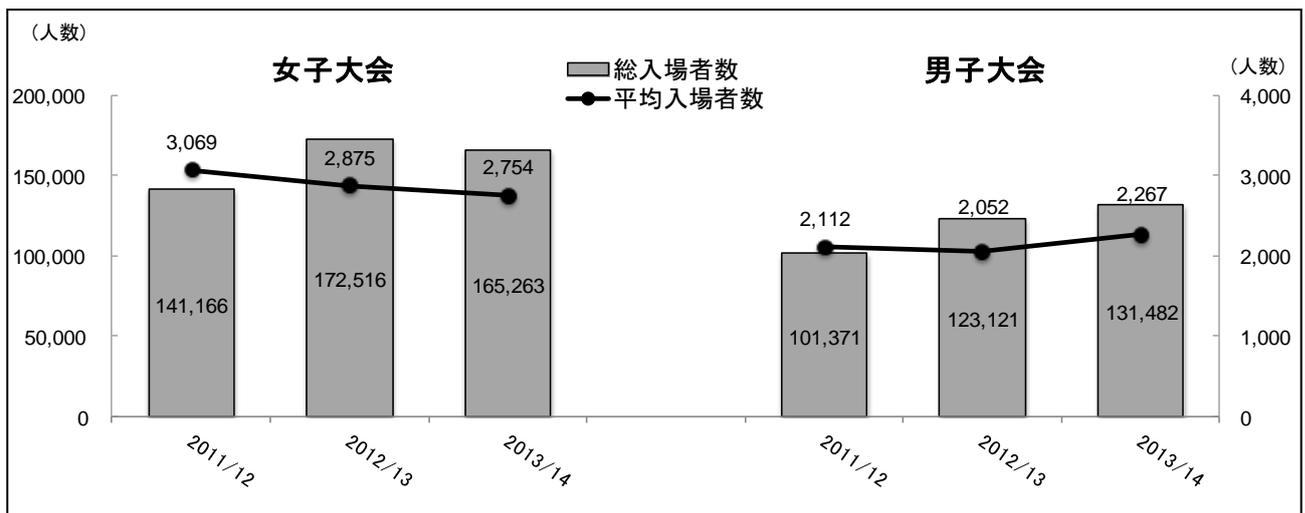
2013/14 シーズンは、女子大会・男子大会ともに参加 8 チームによる 4 回戦総当たりリーグ戦のレギュラーラウンドとファイナルラウンドの競技形式で、レギュラーラウンド 112 試合、ファイナルラウンド 8 試合の計 120 試合、男女合計で 240 試合を延べ 63 会場(女子 33 会場、男子 30 会場)にて開催しました。

観戦入場者数を見ると、女子・男子大会合計で 296,745 人(対前年 1,108 人増)、女子大会は 165,263 人(対前年 7,253 人減)、男子大会は 131,482 人(対前年 8,361 人増)、となりました。1 開催日平均では、女子が 2,754 人(対前年 121 人減)、男子が 2,267 人(対前年 215 人増)でした。

テレビ放送に加え、株式会社ドワンゴ社のニコニコ生放送(インターネット動画配信)にて、V・プレミアリーグ試合の動画配信を行いました。女子大会は視聴者数が順調に増加、男子大会は放送試合数の減少により視聴者数は減少しましたが、一試合当りの視聴者数は増加しました。

また、開幕記者会見に加え今年度よりV・チャレンジマッチおよび「2013/14V.LEAGUE AWARD」の動画配信を行いました。その結果、2013/14 シーズンの総視聴者数 1,332,952 人を獲得しました。

観戦入場者数の推移



テレビ放送及びインターネット動画配信(ニコニコ生放送)実績の推移

	女子大会【レギュラーラウンド、ファイナルラウンド】						
	BS 放送 (全国放送)	CS 放送 (全国放送)	地上波 (地方放送)	インターネット 動画配信	放送 試合数	全試合に 占める放送 割合	インターネット 動画配信 配信視聴者数
	放送数	放送数	放送数	放送数			
2011/12 シーズン	27	4	5	1	37	40%	62,010
2012/13 シーズン	17	20	7	24	68	56%	576,833
2013/14 シーズン	14	17	8	* 41	80	66%	855,713

*一部、複数メディアによる重複放送があります。

	男子大会【レギュラーラウンド、ファイナルラウンド】						
	BS放送 (全国放送)	CS放送 (全国放送)	地上波 (地方放送)	インターネット 動画配信	放送 試合数	全試合に 占める放送 割合	インターネット 動画配信
	放送数	放送数	放送数	放送数			配信視聴者数
2011/12 シーズン	27	—	—	2	29	31%	88,715
2012/13 シーズン	13	10	—	20	43	36%	426,231
2013/14 シーズン	11	16	—	13	40	33%	304,347

2013/14 シーズンも、Vリーグ機構が掲げたビジョン、「世界に挑戦」「ファン重視」「地域に密着」「常に発展」「成果の拡大」に沿った諸施策を推進しました。

主なものとしては、次の通りです。

① 大会キャッチコピー

毎年一般から公募して決めているVリーグのキャッチコピーについて、2013/14シーズンは、Vリーグ20年目を「過去」「現在」「未来」の三つの時代をテーマに「感動」を伝える意味で、『Vリーグ20年～未来につながる感動を～』と決定しました。

② 普及とファンサービス

- (I) 北から南まで全国延べ63会場での開催
- (II) テレビ全国放送がある試合のみカラーコート採用
- (III) キッズエスコートの全会場での実施
- (IV) 開場後からプロトコール前後のイベントマニュアルの見直しと充実
- (V) エントランスアーチなど会場内外演出の見直しと充実
- (VI) サイン入りミニボールの投げ込み

③ ファイナルラウンドの充実

- (I) レギュラーラウンド1位チームへの賞金の授与継続
- (II) セミファイナル、ファイナル(優勝決定戦・3位決定戦)の前日記者会見開催
- (III) 優勝決定戦・3位決定戦を女子大会・男子大会(東京都)を同一会場で開催
- (IV) 元宝塚歌劇団越乃リュウ氏による国歌独唱
- (V) 1dayプログラムの発行
- (VI) OB・OGによるドリームマッチの開催
- (VII) 応援メッセージボードコンテストの開催
- (VIII) キッズダンスによる会場演出

④ ホームページ等によりファンサービスの充実と盛り上げ

- (I) ホームページの有料サイトの充実、情報発信の迅速化、画像情報強化など実施
- (II) ホームページのリニューアルとSNS(Social Networking Service)による情報発信
- (III) JVISスーパーバイザー制度による判定員の意識向上とレベルアップ

⑤ ホームゲームの充実

- (I) 計画的な運営(ホームゲーム計画書の提出の義務化)とイベント充実の促進

(II) 各チームでの取り組みの充実

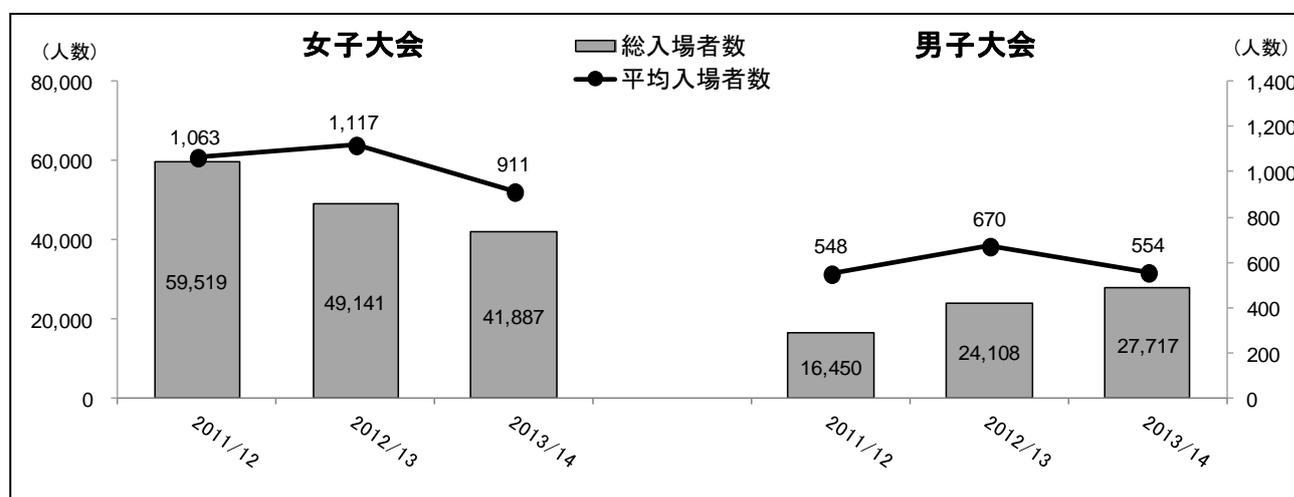
(III) レギュラーラウンド女子大会全 112 試合中 42 試合、男子大会全 112 試合中 42 試合でホームゲーム実施

(2) V・チャレンジリーグ

2013/14 シーズンのV・チャレンジリーグは、女子大会は参加 10 チーム、男子大会が参加 11 チームによる 2 回戦総当たりリーグ戦とし、女子 90 試合、男子 110 試合、男女合計で 200 試合を延べ 49 会場(女子 25 会場、男子 24 会場)にて開催しました。

観戦入場者数を見ると、男女合計で 69,604 人(対前年 3,645 人減)、女子大会は 41,887 人(対前年 7,254 人減)、男子大会は 27,717 人(対前年 3,609 人増)、となりました。1 開催日平均では、女子が 911 人(対前年 206 人減)、男子が 554 人(対前年 116 人減)でした。

観戦入場者数の推移



V・チャレンジリーグもV・プレミアリーグと同様に更なる大会の質の向上をめざし、Vリーグ機構のビジョンに沿った様々な施策を行いました。

① 大会キャッチコピー

(I) V・プレミアリーグと同様の扱いとする。

② 普及とファンサービス

(I) 北から南まで全国延べ 48 会場での開催

(II) スターティングメンバーによるサイン入りミニボールの投込み

(III) キッズエスコート実施

③ 表彰式の見直し

(I) チーム表彰を最終日に行うことでファンの皆様に披露

④ ホームタウンゲームの充実

(I) 各チームのホームタウンゲームの実施と集客施策の実施

(II) 地域密着を心がけた特色のあるイベントの充実

(3) 20周年記念行事

Vリーグに名称を変更し 20 年を迎えたことから、20 周年記念準備委員会を発足させ、その発案によって下記の施策を行いました。

- ① 20 周年記念ホームページの特設サイト開設、種々情報提供
- ② Vバレー会員を公開抽選にて招待し、開幕記者会見を東京体育館のメインアリーナにて開催
- ③ 20 周年記念大会の排球大使(アンバサダー)にタレントや OB・OG から 6 名(石川梨華、吉澤ひとみ、沼田さくら、大山加奈、荻野正二、山本隆弘)任命し、リーグ戦、開幕記者会見、バレーボール教室、メディア等様々なシーンで今シーズンを盛り上げ、バレーボールの普及・拡大、地域貢献のための活動を行いました。
- ④ Vリーグ×TVアニメ「ハイキュー!!」とのスペシャルコラボレーション実施
「ハイキュー!!」コラボデー、「ハイキュー!!」ステッカー配布、コラボグッズ販売、コラボボードの展示
- ⑤ Vリーグ初の試みとして 2013/14V. LEAGUE AWARD による表彰式を開催

(4) 社会貢献活動

①公益財団法人日本骨髄バンク支援活動の継続

Vリーグ機構では社会貢献活動の一環として(公財)日本骨髄バンクへの支援活動を行いました。
2013/14 シーズンの主な活動は以下の通りです。

(I) シール・チラシの配布

V・プレミアリーグ、V・チャレンジリーグの試合会場で、ドナー登録呼びかけのチラシを配布。チラシには、「ギフトオブライフ」の募金振込用紙を付けてあります。

(II) Vリーグ試合会場内に啓蒙用の看板設置

会場内のコートサイドにバナーを設置して、普及活動とドナー登録の呼びかけを行いました。

(III) ファイナル会場において募金活動

4月12日～13日の両日にわたり、OB・OG戦に参加した選手の協力を得て、募金活動を行い、(公財)日本骨髄バンクに 489,615 円寄付いたしました。

② 東日本大震災復興支援活動

Vリーグ機構では、2011 年 3 月に発生した東日本大震災に対し、恒久的な復興支援活動を継続致しました。

(I) 「ふくしまスマイルキャラバン」に協力

男子V・プレミアリーグ開幕戦(12月7日・8日)を開催した福島県郡山市に対し、震災以降、様々な制限や不安の中で生活している本県の子供たちへ、心から癒し楽しめる機会を提供するとともに、子供たちが福島で生まれ育っていることに誇りを持ち、故郷への愛着心を育むことを目的として、県内各地域で応援メッセージ等の展示とイベント開催したもので、チームからはサイン色紙や展示品(ユニフォームなど)に加え、ビデオメッセージが送られました。

(II) 2012/13 シーズンに「Vの輪」缶バッチキャンペーンを展開、販売収益金を東日本復興支援活動の一環として、V・プレミアリーグ男子開幕試合の福島会場に於いて贈呈しました。

(III) ～M U F G・ユネスコ協会 東日本大震災復興育英基金～ V・明日夢プロジェクト・

バレーボール教室を石巻、釜石、南相馬の3会場で実施しました。

③競技団体支援活動

(I) 2013V・サマーリーグ女子大会一次リーグ大会、東部大会(西尾市:西尾市総合体育館、西部大会(鹿屋市:串良平和アリーナ)において、参加した選手の協力を得て、募金活動を行い、一般社団法人日本デフバレーボール協会に428,207円贈呈しました。

(5)普及活動

Vリーグ機構は年間を通して、バレーボール教室の開催(チームが行うバレーボール教室及びJVA指導普及委員会の行なう「Vリーグ選手と一緒にバレーボール教室」)や、2003年度から始めた「ジュニア育成支援活動」など、ジュニアの育成、地域に密着した社会貢献型の活動にも引き続き力を入れてきました。

① V・プレミア、V・チャレンジ両リーグのチームが主催したバレーボール教室は、全国各地で延べ700日開催し(昨年対比95%)、小学生から家庭婦人まで69,641人の受講者(昨年対比137%)を迎え開催しました。

②「V・明日夢プロジェクト」バレーボール教室

Vリーグ機構は、2012年11月に「V・明日夢プロジェクト」を組織化し、元VリーガーOB・OGを講師とし派遣、トップリーグで培った技術及び経験を生かし、バレーボールの普及および発展のために、バレーボール教室を積極的に開催しました。

今年度は、38回延べ3,832人の受講者(昨年対比287.0%)を迎え開催しました。

(6)国際交流

① アジア・世界クラブ選手権への派遣

アジアバレーボール連盟が主催する本大会は、トップリーグの国際競技力の強化、アジア地域におけるスポーツ文化交流の面で重要な大会と位置づけ、女子は全日本選手権(皇后杯)優勝の久光製薬スプリングス、男子は日程の関係上、全日本選手権(天皇杯)優勝の東レアローズが参加不可能になった為、V・チャレンジリーグの大分三好ヴァイセアドラーを派遣しました。女子の久光製薬スプリングスは輝かしい成績(優勝)を収め、世界クラブ選手権へ駒を進めました。

② 日韓V.LEAGUE TOP MATCHはアジアクラブ選手権大会と日程が重複しており、調整がつかなかった為、2013年度は中止しました。

(7)各種リサーチ

① 観戦者を対象にしたアンケートの実施

スポーツにおいて観戦者のことを知り、観戦者のニーズを知り、そのニーズを充足するサービスを提供することが、増客に向けた1つの重要な手段となると考えています。そこで、Vリーグの観戦者(ファン)は「どのような人たち」で「何を求めているか」を知る手段として、2013/14シーズンのV・プレミアリーグ18会場において観戦者調査を実施しました。

調査対象試合 V・プレミアリーグ男女全16チームのホームゲームのうち、各チーム1開催日ずつ大会を選定し観戦者調査を実施。また、一般開催として開催した大会のうち男子大会、

女子大会より各1開催日ずつ選定し調査を実施。

調査期間	2014年1月11日(土)～3月16日(日)
調査対象	各会場に来場している中学生以上のV・プレミアリーグの観戦者
調査方法	会場時間から第1試合開始までの時間帯と、第1試合と第2試合間の時間帯に会場全域に調査員を配置。調査員は観戦者に直接質問紙を配布・回収
調査項目	大学研究機関の協力の下で原案を作成し、各チームの意向なども加味した調査項目を作成しました。基本的項目として、観戦者の人口統計的特性、地理的特性、情報入手経路、チケット入手経路、バレーボール関与度、そして心理的特性、その他項目により構成されています。

調査結果の今後の活用については、これまで曖昧に捉えていたVリーグの観戦者の特性をより明確に知ることができます。そのデータを駆使すれば、観戦者のことをより深く知ることができます。今後、Vリーグの増客のための施策やプロモーション戦略を策定する上で活用して参ります。

① ネットリサーチと映像分析

観戦者調査では、既存の観戦者やVリーグのファンの方々の特性は把握できますが、Vリーグ観戦者以外の人々のVリーグの認知度や興味・関心については把握することができません。2013/14シーズンは、レピュコムジャパン株式会社にご協力をいただき、ネットリサーチを2度実施致しました。また、同社協力のもと、V・プレミアリーグの映像分析を行い、チームやスポンサー看板のメディア露出における価値分析も併せて行いました。

これらで得られた情報は、今後Vリーグの集客戦略の策定や、各種プロモーションの際に活用して参ります。

【インターネット調査概要】

調査実施	①2013年12月25日～27日	②2014年3月3日～4月4日
調査方法	インターネットウェブ定量調査	
調査対象	16～59歳の男女	
サンプル数	①2,880人	②2,880人
調査協力	レピュコムジャパン株式会社	

(8)研修会・会議活動

① 監督研修会・JURY会議・レフェリークリニック

監督研修会を2013年10月5日～6日に開催し、今年度の重点テーマを「世界レベルの戦術」と「選手とのコミュニケーション」とし、多くのゲストスピーカーを招き充実した研修会となりました。

同一日程同一会場の別室において、2013/14シーズン開幕に向けたJURY会議を開催したほか、6日午後からは、全チームの監督とJURY、実行支援部が一堂に会し、2013/14シーズンで適用するルールの確認等を行う、レフェリークリニックを開催致しました。

会 場 富士通(株)川崎工場会議室、サントリー夢たまご研修センター(神奈川県川崎市)

出席者	監督研修会	計41名
	JURY会議	計20名、事務局員ほか
	レフェリークリニック	計127名

② 開催地・チーム合同会議

開催地・チーム合同会議はVリーグの大会に際して、そのシーズンの大会運営に関する最終確認を行う会議として毎年実施しています。2013/14 シーズンに向けた開催地・チーム合同会議は、2013年9月21日(土)大会関係者約163名が集まり開催致しました。

会 場 シダックスホール(東京都渋谷区)

出席者 計163名

③ Vリーグ機構アナウンス研修会

Vリーグ会場で行うアナウンスは、お客様に必要な情報を伝えるほか、大会を盛り上げるという大変重要な役割を担っています。今年度、初の試みとして、2013年11月2日(土)Vリーグ大会でコートアナウンスを担当するコートアナウンサーの皆様にお集まりいただき、Vリーグのアナウンスマニュアルについて再確認頂くとともに、コートアナウンサーの方々のスキルアップと、それによりバレーボールファンの満足度向上に繋げることを目的とした研修会を実施しました。

会 場 KFCビル内会議室(東京都墨田区)

出席者 計27名、事務局ほか

(9)助成金

Vリーグ機構は、我が国における国際競技力の向上を期すための国の助成金制度「競技強化支援事業助成金(国庫基金)」を制度開始の2003年度から毎年交付を受けています。さらに、「スポーツ振興くじ助成金」として、将来性を有する競技者発掘及び育成活動のための支援事業及びスポーツ教室・スポーツ大会開催事業としての助成金を、独立行政法人日本スポーツ振興センターより交付を受けました。今年度については、両助成金で37,132千円の交付を受け、マネジメント機能強化、研修会やV・プレミアリーグ活性化、V・チャレンジリーグの強化育成・活性化に活用しました。

今後とも制度の主旨に沿った有効活用を心がけ、競技力向上とリーグ活性化に努めてまいり所存です。

(10)協賛金

今シーズンもV・プレミアリーグに対して、従来からの企業様、2013/14 シーズンより新たに数社の企業様から協賛をいただくことができました。

協賛いただきました各企業様と、お世話になりました株式会社電通様に厚くお礼申し上げます。

今後、景気も緩やかに回復基調に転ずることが見込まれる状況下、2020年のオリンピック・パラリンピック開催が東京に決まり、バレーボール界を取り巻く環境も変化するものと思われれます。

Vリーグ機構としましては、リーグ運営並びに主催大会の一層の活性化に努め、参加選手がオリンピックに向けて鍛錬できる実戦の場を提供し続ける所存です。

法人設立時に掲げた5つのビジョンの実現に向け、より開かれた組織運営と事業活動を継続して取り組むとともに、公益財団法人日本バレーボール協会をはじめ、都道府県バレーボール協会他関係諸団体との協力関係についてもより一層の緊密化を図り、社員各位の期待に応えてまいり所存です。

社員の皆様におかれましては、引き続き格別のご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

3. 社員の概況

*社員名、チーム名は2014年6月30日現在（順不同）

社員名	チーム名	区分	基金の口数	基金の額（円）
公益財団法人日本バレーボール協会			12	6,000,000
株式会社ウォーク	岡山シーガルズ	女子	1	500,000
サントリーホールディングス株式会社	サントリーサンバーズ	男子	1	500,000
株式会社デンソー	デンソーエアリービーズ	女子	1	500,000
東北パイオニア株式会社	パイオニアレッドウィングス	女子	1	500,000
東レ株式会社	東レアローズ	男子	1	500,000
	東レアローズ	女子	1	500,000
豊田合成株式会社	豊田合成トレフェルサ	男子	1	500,000
日本たばこ産業株式会社	JTサンダーズ	男子	1	500,000
	JTマーヴェラス	女子	1	500,000
日本電気株式会社	NECレッドロケッツ	女子	1	500,000
久光製薬株式会社	久光製薬スプリングス	女子	1	500,000
日立オートモティブシステムズ株式会社	日立リヴァーレ	女子	1	500,000
株式会社ブレイザーズスポーツクラブ	堺ブレイザーズ	男子	1	500,000
パナソニック株式会社	パナソニックパンサーズ	男子	1	500,000
一般社団法人上尾中央医科グループ協議会	上尾メディックス	女子	1	500,000
株式会社大野石油店	大野石油広島オイラーズ	女子	1	500,000
近畿クラブ	近畿クラブスフィーダ	男子	1	500,000
警視庁	警視庁フォートファイターズ	男子	1	500,000
株式会社ジェイテクト	ジェイテクトSTINGS	男子	1	500,000
医療法人青雲白鷺会三好内科・循環器科医院	大分三好ヴァイセアドラー	男子	1	500,000
大同特殊鋼株式会社	大同特殊鋼レッドスター	男子	1	500,000
一般社団法人つくばユナイテッドサンガイア	つくばユナイテッドSun GAIA	男子	1	500,000
医療法人社団天宣会	柏エンゼルクロス	女子	1	500,000
東京フットボールクラブ株式会社	FC東京	男子	1	500,000
トヨタ自動車株式会社	トヨタ自動車サンホークス	男子	1	500,000
トヨタ車体株式会社	トヨタ車体クインシーズ	女子	1	500,000
東京ヴェルディ1969フットボールクラブ株式会社	東京ヴェルディ	男子	1	500,000
富士通株式会社	富士通カワサキレッドスピリッツ	男子	1	500,000
KUROBEアクアフェアリーズ	KUROBEアクアフェアリーズ	女子	1	500,000
株式会社PFU	PFUブルーキャッツ	女子	1	500,000
NPO法人阪神バレーボールコミュニティ	兵庫デルフィーノ	男子	1	500,000
NPO法人エイティエイツバレーボールクラブ	仙台ベルフィーユ	女子	1	500,000
株式会社きんでん	きんでんトリニティーブリッツ	男子	1	500,000
東京トヨペット株式会社	東京トヨペットグリーンスパークル	男子	1	500,000
株式会社熊本サービスセンター	フォレストリーヴズ熊本	女子	1	500,000
グリーン・サポート・システムズ株式会社	GSSサンビームズ	女子	1	500,000
ぎふ農業協同組合	JAぎふリオレーナ	女子	1	500,000
合 計	(36 団体) (37 チーム)		49	24,500,000

4. 運営体制の強化

2013年9月24日に開催した第8回定時社員総会後の理事会において、第8期に引き続き木村憲治代表理事会長、井原実副会長体制をスタートさせました。

(1) 役員一覧

2014年6月30日現在

代表理事 (会長)	きむら けんじ 木村 憲治	1945年(昭和20年)7月19日生 第5期監事 第6期～第9期代表理事会長 (株)扇港電機顧問
理事 (副会長)	いはら みのる 井原 実	1947年(昭和22年)1月28日生 第4期～第9期理事(うち第6期～第9期副会長) 井原 実公認会計士事務所 所長
理事	みよし とおる 三好 徹	1947年(昭和22年)4月15日生 第2期～第9期理事 三好総合法律事務所 所長
理事	くぼた りゅういち 窪田 隆一	1963年(昭和38年)4月29日生 第6期～第9期理事 富士通(株)インテグレーションサービス部門事業推進統括 部長 富士通カワサキレッドスピリッツ 部長
理事	はやし たかひこ 林 孝彦	1959年(昭和34年)8月1日生 第6期～第9期理事 一般社団法人日本バレーボールリーグ機構 事務局長
理事	おかの みのる 岡野 實	1948年(昭和23年)3月18日生 第8期～9期理事 (株)ウォーク GM 岡山シーガルズ GM
理事	かやしま あきら 萱嶋 章	1957年(昭和32年)10月4日生 第8期～9期理事 久光製薬(株)鳥栖工場厚生部 部長 久光製薬スプリングス 部長
理事	さとう なおじ 佐藤 直司	1961年(昭和36年)11月7日生 第8期～9期理事 グラントソントン太陽ASG税理士法人 執行役員パートナー
理事	しもやま たかし 下山 隆志	1949年(昭和24年)1月2日生 第8期～9期理事 公益財団法人日本バレーボール協会 業務執行理事 国際バレーボール連盟 アジアバレーボール連盟 審判委員会委員
理事	みずかわ まつね 水川 松根	1959年(昭和34年)10月10日生 第8期～9期理事 豊田合成(株)総務部社会貢献推進センター主担当員 豊田合成トレフェルサ GM
理事	やまのかわこうじ 山ノ川孝二	1953年(昭和28年)1月7日生 第8期～9期理事 日立オートモティブシステムズ(株) 専務取締役 日立リヴァーレ部長
理事	よしはら ともこ 吉原 知子	1970年(昭和45年)2月4日生 第8期～9期理事 国際武道大学女子バレーボール部ヘッドコーチ 公益財団法人日本オリンピック委員会 強化スタッフ
監事	たきもと のりあき 滝本 規明	1943年(昭和18年)12月4日生 第5期～第9期監事 サントリー(株) 社友
監事	はやの ようじ 早野 容司	1960年(昭和35年)3月3日生 第6期～第9期監事 (株)ジェイテクト海外営業部 部長 ジェイテクトSTINGS GM